

学級通信の書き方 (改訂版)

学級通信（学級だより）は、学校の様子を保護者さんにお知らせするだけでなく、「家族の会話を生み出す」という大きな効果が期待できます。ただでさえ忙しい保護者さんにちょっとだけでも子どもに向き合ってもらう貴重な時間を作り出してくれます。こうした会話を通じて子どもたちの自尊感情を少しでも高められたらと思います。また、会話は「コミュニケーション能力」の向上に欠かせません。自分の思いが言葉にできない子どもたちが増えている昨今、家族のみなさんの「教育力」にも頼(たよ)っていいと思います。学力は学校だけでは高まりません。

なお、学級通信を毎日出されている先生もおられますが、負担感にならないように、出すのは「たまに」でいいと思います。学級通信は学級経営をうまく進めるためにも、おすすめのアイテムです。

1. 記事の内容

一番ポピュラーなのが**取組みや行事**（校外学習やゲストティーチャー、誕生日会、学級会など）です。それを読んだ保護者は「こんなことがあるんやね。」と、家庭での親子の会話の材料にしてください。

また、学級の**日常の仲間のようす**（がんばったことなど、いいことだけでなく課題も）を提供すると安心されます。だって、一番保護者が心配されるのは、いじめや友だちとの仲間関係ですから。

「課題も書く」というのは、わが子の学級がうまくいっていないのを子どもを通じて敏感に感じ取られます。また、保護者さんの間ではSNSを通じて先生以上に情報が飛び交っています。ですから、不安がどんどん大きくなる前に現状をはっきりと伝え、「今、こういう努力や立て直し策を学級で取っていますので、家庭ではこうしてください。」などと、率直に支援を求めたほうが早く改善します。それは保護者さんに安心感を与えるだけでなく、どの保護者さんも「子どものために（この学級の改善に）力になりたい。」と思っておられるからです。うまくいかないことをひたすら隠しても子どもを通じて丸見えですから、変なプライドは捨てましょう。（と言っても、これが一番難しいですよ。）でも、これは病気になったときのがまんと同じで、一人で抱え込んでしまうとますますしんどくなります。あなたがしんどくなるだけでなく、一番の犠牲者はクラスの子どもたちです。「早い手当てが一番」と考えましょう。

さらに、小学校では算数や国語などの**学習内容**を提示すると、保護者さんが家で子どもの勉強を見て教えるヒントになります。家庭支援（家庭の教育力の向上）に役立ちます。また、たまには担任の先生自身のことも伝えると、身近に感じてもらえますよ。

2. 注意点

通信は文字ばかりだと読みづらいです。なかには全部読まずに廃棄ということもないとは限りません。せめて一とおり目を通してもらえる「通信」にするためには、**写真を何枚か入れるのがコツ**です。ただし、**子どもの写真**ですから、当然、顔と名前が一致しないように、顔がはっきりわからないような写真とか名札が読み取れないように**配慮する必要**があります。（外部に出す文書は、基本的に「一般に広まる」ということを自覚しましょう。）

また、タイムリーな内容を提供することが大切です。

さらに、管理職としてチェックをされていて残念に思ったことがあります。それは、大規模校では学年の取組みが同じで、複数の学級通信の記事もほとんど同じということが結構あります。読んでみると、「同じような内容なのに、担任の先生一人ひとりが作成していて、時間ももったいないな。」と感じます。それなら、『学年だより』に一本化した方がいいと思います。学年で検討ください。

3. 文章の基本

短く端的な文章にする。まずは短く。長い文章は読んでもらえません。また、「タイトル」を工夫するといいですよ。目を引く見出しを！ さらに、英語の長文と同じで、長いと何を伝えたいのかがわかりにくくなります。だれが読んでみてもすぐにわかる言い回しを。ですから、まわりくどい文章はダメです。また、文字の大きさや書体にも気をつけましょう。（ユニバーサルデザインで）それからもう一つ、漢字は正確に書きましょう。（略字はダメ）

4. その他・・・「常識」と言われていることなど・・・よく見受けられる「まちがい」

(1) 「下さい」と「ください」の違い

- ①「下さい」（漢字の使用）は、動詞で、目上の人から物をもらうためにお願いする場合に使います。「上」から「下」への物の動きを示します。英語では” give”です。
- ②「ください」（かな書き）は、補助動詞（名詞や動詞につける）で、他の人に動作を依頼するときや動作をする人に対する敬意を表現するときに使います。「（～して）ください。」となります。英語では” please”です。

※おもしろい混用例

ある人の日記から：お医者さんに「**パンツを脱いで下さい。**」と言われた。・・・
⇒これ、どうですか？ 「下さい・」と漢字で書くと、パンツを脱ぐだけでなく、脱いだそのパンツをもらいたいという意味になります。大変な違いですね。

(2) 「通り」と「とおり」の使いわけ

・昭和24年4月の国の内閣訓令『公用文作成の要領』に規定されています。

- ①「通り」（漢字書き）は、語源は「道路」です。
- ②「とおり」（かな書き）の語源は、やまとことばで、「～のように」の意味です。

(3) 「ください」と「いただく」の使い方の基本（これは混同が多いです。）

- ①「ください」（かな書き）は、基本的には『相手に』何かをしてもらうときに使います。
例：ご来校ください。ご準備ください。ご持参ください。
- ②「いただく」は、『こちら（自分側）が』何かをする（させてもらう）ときに使います。
相手側や第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を自分が受けるという事実や気持ちがある場合に使います。

例：訪問させていただきます。準備させていただきます。使わせていただきます。

(4) 「漢字言葉」は使わない。（保護者向け文書などでは、だれもがわかる言葉で。）

例「秋冷の候」⇒「少しずつ秋を感じる季節となりました。」「秋風がこちよい季節となりました。」

(5) 漢字には「よみがな」をつける。・・・国際化の時代です。当然ですよ。

難しい漢字にはもちろんですが、やさしい漢字にもよみがなをつけましょう。日本語学習の基本は「ひらがな」ですから。コロナ禍で少し停滞していますが、「少子化」が進む日本は、これからもっとたくさん外国人の力を借りないと成り立たないのですから。あわせて、西暦併記も忘れずに。